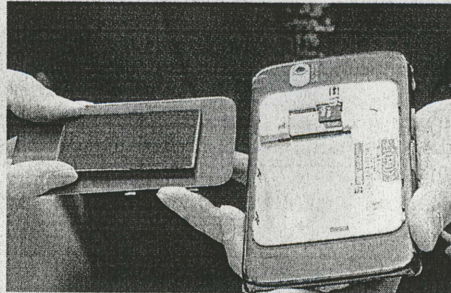


携帯通話範囲  
シートで拡大

大瀬研究所発売

電子部品開発ベンチャーの大瀬研究所(石川県白山市)は、携帯電話の電池に貼って通



通話範囲を広げるシートを貼った携帯機器の電池部(金沢市内で)

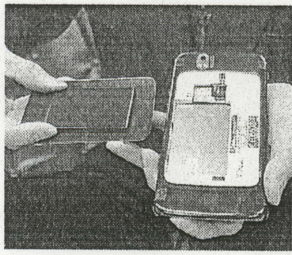
話範囲を広げるシート「電波〇(デンパマル)」を開発し四日、無線機器店や家電量販店などで発売する。価格はオープンで、二千円前後を想定する。

シートは厚さ〇・二ミリで、アルミと備長炭がノイズを低減。特許も取得した。有効な周波数があり、ソフトバンクの携帯電話は全国で、NTTドコモとKDDI(a.u.)では局地的に機能。通話範囲は、地下で十

百広がるという。大瀬研究所は、石川テレビ放送技術局出身の大瀬九一社長が二〇〇九年に設立。「電波〇」が初めての商品で、年間千四百万円の販売を見込む。大瀬社長は「タクシー無線など業務用機器にも応用する」と話した。

電池に張り付けるだけ

する考え。この技術で2月に特許を取得した。大瀬研が開発した専用



携帯電波受信  
改善シート

大瀬研究所

シート「電波〇(まる)」は、11ミリ角に分割したアルミ箔を微細なカーボン粉末ではさんだ3層構造で、厚さは0.2ミリ。これを電池に張り付けるに納入する方針。初年度と、携帯の電子回路が発するノイズ電波が減り、通信電波を受信しやすくなる。2ギガ帯での送受信者だった大瀬九一社長が2009年に設立した。「電波〇」が同社の第1弾の商品となる。

電池に張り付けると、電子回路が発するノイズ電波が減る

ケータイの電波  
改善するシート

大瀬研究所が発売

電子部品開発の大瀬研究所(白山市)は4日、携帯電話の電波を改善するシートを発売

する。電池パックの裏面に貼ることで、通話エリアが広がり、データ通信も円滑になるという。

同研究所によると、シートは備長炭とアルミで構成され、受信を妨害する余分な信号を吸収する働きがある。

建物内では10メートル程度のエリア改善が見込めるという。特許を取得済みで、無線機専門店の中部特機産業金沢、小松、福井各店で取り扱うほか、卸業者を通じて全国への拡販を狙う。1枚2千円。初年度売上高は1400万円を見込む。3日、大瀬九一社長が金沢商工会議所で会見した。